

2017・18年度
国際ロータリー第2790地区

GOVERNOR'S MONTHLY COMMUNICATION

TO CLUB PRESIDENTS AND SECRETARIES IN DISTRICT 2790 (CHIBA)

春

1

2018年
JANUARY
VOL.7

謹賀新年

長澤蘆雪 月下仔犬図

職業奉仕月間



COPY FOR MEMBERS



長澤蘆雪

地区行動指針 理念と実践 ～Think Next～



国際ロータリー第2790地区 寺嶋 哲生 (柏RC)
2017-18年度ガバナー

職業奉仕月間によせて

皆様、あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。早いもので、ガバナーを拝命して半年が過ぎました。公式訪問を終え、改めて素晴らしい機会を頂いたことに感謝をしている処でございます。今月は職業奉仕月間です。私がかねてより、職業こそが最大の社会貢献であると考えております。今月はそんなお話を記します。

今から数年前の事です。私がスポンサーをした新入会員の一人が、「職業奉仕」という言葉が全く理解できない。そんな疑問を投げかけて来た事がありました。私は、彼が何故理解できないのか、その理由を私なりに推察してみました。恐らく彼は、「職業」とは生活の糧を得る為の行為であるが故に利己的な意味合いを持った言葉として理解をし、一方、「奉仕」とは無償の奉仕という言葉が使われるように利他的な意味合いを持った言葉として理解をしている。つまり、「職業奉仕」という言葉には、利己的な概念と利他的な概念が併記されている処に、理解を妨げる原因があったのではないかと思います。

この事に関して、英語で言う「Service」を「奉仕」と訳した事が原因であるとする説明を聞々耳に致します。私は、その説明にも同意いたします。しかしもう一つ。恣意的に申し上げるなら、「職業」という言葉を利己的な概念ではなく、職業とは極めて利他的な行為であると看破した事に、ロータリーの

素晴らしさがある。私はそう考えております。

それでは職業とは何か。私は「職業とは、対価を伴ってもなお必要とされる財、あるいはサービスの提供である」と考えております。対価を伴う行為、即ち有償の行為は、対価を伴わない行為、即ち無償の行為に比べ、より社会のニーズに的確に対応した遥かにクオリティーの高いサービスを要求されます。タダで差し上げますと言えば、大抵の商品は貰ってもらえましょうが、1万円でお譲りしますと言えば、俄然、消費者の目は厳しくなる。言うまでもない事であります。

少し視点を変えます。ゴミゼロ運動とは、社会奉仕活動でありましょうか。私は厳密に言えば、ゴミゼロ運動は社会教育事業であると考えます。年に一度だけ、職業人が自らの職業を休止してゴミを拾う。この行為の本質は、自らの暮らす街を綺麗に保とうとするモチベーションを高める事にある。一日だけ街を掃除するという行為に、清掃という観点から見た本質的な意義は、乏しいものと思います。

それでは、本質的に街を清掃するという任務を負うべき主体は、誰であるのか。それは、誰よりも誠実に、誰よりも合理的に、誰よりもコスト・パフォーマンスが高く、街を清掃できる指定管理者、即ちプロフェッショナルリズムに満ちた職業人である。私が職業こそが最大の社会貢献であると考えている所以であります。



「職業奉仕月間にむけて」

職業奉仕委員会 委員長 中村 俊人 (柏東RC)

今年度も始まり、早くも6ヶ月が経ちました。職業奉仕委員会の皆と共にスタートさせて頂きましたが、寺嶋年度の職業奉仕委員会に於いても、また、地区協議会時から奉仕プロジェクトセミナーや情報研修会時に於いても、各クラブの皆様には卓話依頼の御願いをして参りました。おかげさまで11月現在では14クラブからのご依頼を拝受しました。

そこでお伝えしていますことは、「職業奉仕を難しく捉えないでもっと身近に考えてみませんか」ということです。職業奉仕についてロータリアンに伺いますと、それぞれのお答えが基本的には変わらないと思うのですが、十人十色の考えが返ってまいります。それも無理は無いとも思いますが、ロータリアンとして入会されて、5年・10年・20年・30年以上とそれぞれのロータリアンとしての歴年もあり、またロータリークラブとしても少しずつの変化も見られてきています。しかし、職業奉仕に付いては、難しく考えずにもっとやさしく考え、ロータリアンの皆様がそれぞれの携わっている職業に於いて、誠実に、そしてもっと人への思いやりも含めて接する事の大切さを伝える。そして、「ロータリーでいう職業奉仕」とは、自分の職業に「誇り」と「愛情」と「高潔性」を持って最大級の努力をする事ではないかと考えています。職業奉仕については「受益者」が誰なのか、地域の皆様であれば社会奉仕であり、その奉仕された結果自分に返ってくれば職業奉仕になるといわれています。

職業奉仕は自分の職業を通じたサービスであります。それには無論報酬が伴いますが、大切な顧客の皆様への職業サービスを行うことによって、企業の繁栄にも繋がり、結果的にはその行為が信頼信用に繋がると考えられます。

また、現在の職業奉仕委員会は、奉仕プロジェクト委員会の中の一委員会として活動し、その中で、社会奉仕委員会との結びつきもあり、切り離す事は

出来ません。

小さな活動が信頼を生み、ロータリアン自身の信用に繋がり、また仕事へと影響をしていきます。その上で、職業奉仕を難しく考えずにわかり易く伝えていく事、また奉仕を通じて「信用・信頼を得る大切さ」を皆様にお伝えしたいと考えています。しかし、職業によっては、直接地域の方々とのふれあいが出来ない職業もございます。しかし、職業奉仕はそのような活動ばかりでは無く、ご自身の職場によって接するの方々へも誠実に接する事も日頃の大切なことであると考えています。

お客様へ、又は取引先の方への対応についても、日頃のご自身の気配りや対応により、人との信頼を深めていく事も大切な職業奉仕につながります。また、若い方々にご自身の職業について伝承していく事、仕事の大切さ、取り組み方をしっかりと伝達する事も職業奉仕の一つとも考えられています。今まで、出前教室は社会奉仕では？とも言われていましたが、この活動も立派な職業奉仕へと繋がっています。仕事の伝承として、仕事に携わる中での大切な事、また、その中でしっかりと信用信頼を得ることなど、この様な事をしっかりと伝える事も大切であると考えています。ロータリアンの皆様、もう一度職業奉仕を身近に考えてみませんか。

日頃のコツコツとした行いによって感謝され、またその活動が自身の事業にも反映される。これは立派な職業奉仕であると思います。

重複いたしますが、受益者が誰なのかをもう一度考え、是非、自分の事業や職業に合った職業奉仕のあり方を考えてみませんか。

入会してまだ浅いロータリアンの仲間の皆さまや、またクラブの仲間と共に職業奉仕について、語り合ってみては如何でしょうか。それによりクラブ内への活性にも繋がると思いますので、どうぞ宜しくお願いを致します。

財団セミナー報告特集



地区ロータリー財団セミナー開催報告

ロータリー財団統括委員会 副委員長 平野 弘和 (木更津RC)

当日は台風等の影響からお足元が悪いにもかかわらず、地区財団セミナーに御参集頂きありがとうございました。寺嶋ガバナー、橋岡ガバナーエレクト、諸岡ガバナーノミニーを始め、地区内の多くのクラブより150名近い方々に御参加を頂きました。2013年に導入されたFuture Vision（未来の夢計画）に基づき、地区内クラブによる地区補助金の運用は年々活発となり、今年度は38本が実施されています。

地区財団委員会の最も重要なミッションは、国際ロータリー（RI）と国際ロータリー財団（TRF）が推進する特別プログラムについて、地区内全ての会員の皆様に周知し、協力を要請することです。具体的には、人道支援として「ポリオ・プラス」、世界平和構築のための「ロータリー平和フェロシップ」です。昨今は国際ロータリー並びにロータリー財団が推進するこの2つのプログラムへの関心が薄らいでおるのではという危機意識から今回の財団セミナーでは会員の皆様に更なるご理解とご協力をお願いする目的で開催しました。

「ポリオ・プラス」は現在ポリオ発症常在国が世界で3ヶ国にまで減少し、地球上からポリオウイルスが撲滅され、生まれ来る子供たちがポリオで苦しむことのない世界の実現まであと一步のところです。幸い日本ではポリオ（小児マヒ）という言葉さえ死語になりつつありますが、世界で絶滅されない限り日本でも投与は続けられています。このポリオを撲滅させる私達の活動についての現況や専門知識をお話いただこうと、第2ゾーンEPNZCを務めておられる坂本俊雄ゾーンコーディネーターをお迎えし、詳細なお話を頂きました。

また、「世界平和フェロシップ」は、世界平和構築のためのプログラムです。人類は20世紀に、2度にわたる大戦から多くの尊い人命が失われ、沢山の人が苦しみました。そうした戦禍を解決するための研究に取り組む人材を養成する目的で、紛争解決の特別講座を持つ著名な7大学に平和センターを設

置し、毎年約100名の有為な人材育成を支えています。センターで学ばれた方々は、国連などの国際機関を通じ実際の紛争解決の現場で活躍されています。

来年2月10日には地区補助金制度についての補助金管理セミナーも開催する予定です。

皆様からお預かりした年次寄付金は、地区補助金として、奉仕活動全般の財源となる事からその活用促進を説明し、手続きについてのアシストなど皆様のクラブが有効に活用されるお手伝いをさせて頂いておりますが、あくまでも皆様とクラブが実施主体です。年次寄付、ベネファクター、使途指定のポリオ・プラス、平和フェロシップへの寄付と、ロータリーカードの利用額に応じた寄付金が財源であり「世界でよいこと」をするために活用、管理しております。今後も、クラブ、会員の皆様の深いご理解とご協力をお願いします。

関口徳雄研修リーダーからは講評の中で、財団の内容が良く理解出来、近年では稀にみるセミナーだったとお褒めの言葉も頂きました。最後になりましたが、当地区から出向されておられる山崎 敬生 R 平和センターホストエリアアドバイザー（市川RC 所属）には自費出版された平和フェロについての解説書を皆さまに配布頂きました。厚く御礼申し上げます。





ポリオ撲滅へのパスポート

ロータリーポリオプラス委員会 委員長 中沢 由岐子 (柏RC)



坂本俊雄ゾーンコーディネーター講演風景

今年度の地区ロータリー財団セミナーは国際ロータリー第2ゾーン、ポリオ撲滅ゾーンコーディネーター (EPNZN) 坂本 俊雄フェロー (東京八王子南RC) に特別講演をお願いしました。悪天候の中、多くの会員が足を運んで下さいました。ありがとうございました。

坂本EPNZNには、ポリオの感染がどのように起こり、どんな症状になるのか、そしてポリオプラスへの寄付金が世界的にどの程度集まり、中でも日本のロータリークラブはいかほどの貢献をしているのか、等々お話し頂きました。

1985年度から2016年度までの世界寄付総額は17億ドルであり、それに対する日本の支援額は8,530万ドルで、総額の5%にあたるお話でした。

ロータリーを主としたこれまでの活動により、ポリオ常在国は3カ国 (アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア) にまで減り、最新の症例数でも、アフガニスタン9例、パキスタン5例、ナイジェリアは0で確認されていません。あと少し、あと一歩と述べられていらっしゃいました。

日本ではポリオ野生株による発症例の報告はありませんが「人から人へ」感染するポリオウイルスを

地球上から撲滅させなければ、グローバル社会の今日、どこの国で発症するかわかりません。自国での発症がないからではなく、だからこそ発症している国、ワクチンの接種がままならない国への支援を行わなければならないのです。

難民受け入れをしている国に、ポリオ感染者が入国したならばどうなるのでしょうか？

ポリオは5歳未満の子どもへの感染が最も多い病気ですが、大人も感染し、キャリアになります。症状が出難い大人が感染し、子どもに感染させてしまったら…。

どうか、今一度ポリオ撲滅について各クラブでも考えて頂きたく思います。

かけがえのない子どもたちの未来のために、私たちロータリアンは今、何をすべきか。

今年6月に開かれたアトランタ世界大会で、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は今後3年間にわたりロータリアンが集めた寄付 (年間5,000万ドルを上限として) に対して2倍の支援金を拠出すると発表されました。これは実に3年間で最大4億5,000万ドルを集める大事業です。皆様お一人が3,000円の寄付を行って下さればビル&メリンダ・ゲイツ財団から6,000円が支援されます。皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



財団セミナー報告特集



ロータリー平和フェローシップ (平和センタープログラム) について

ロータリー平和フェローシップ委員会 委員長 織田 信幸 (松戸RC)

ロータリー平和フェローシップは、平和および紛争解決の分野におけるリーダーを育成・支援するための奨学金プログラムです。

このプログラムは1996年、ポール・ハリス没後50周年にちなみ、平和学を中心としたロータリー大学の創設構想から始まりました。ロータリーの生みの親であるポール・ハリスは二度の世界大戦を経て、世界平和の難しさを痛感し、生涯誰よりも強く平和を希求したロータリアンでした。その思いはすべてのロータリアンの願いでもあり、長い間、世界理解と平和とロータリーの使命を推進する為にロータリー大学の創設を夢見てきました。

しかし大学を創設するにはあまりにも莫大な費用と時間が必要で、むしろ平和学に優れた大学の中にセンターを設け、世界平和に貢献する人材を見出し、彼らのスキルを高め世に出すことで、様々な分野に影響を与えるプランを打ち出すことが賢明であるとの結論に至り、1999年財団管理委員会は、世界にある100余りの大学をピックアップし、その中から8つの大学と提携する計画を承認し、推し進めることを決定しました。

提携先の各大学にロータリー平和センターを設立し、2002年このプログラムは正式にスタートしました。(現在は6センター7大学)

毎年、世界から選ばれる約100名のフェロー(奨学生)が全世界7つの大学に設置された6つの「平和および紛争解決の分野における国際問題研究のための

ロータリー平和センター」で学んでおり、日本では国際基督教大学が提携大学となり、每期10名(計20名)のフェローを受け入れております。

現在、15期生(2016-18)と16期生(2017-19)を合わせた計19名のフェローが国際基督教大学で学んでおり、各地区から推薦されたロータリアンがカウンセラーとしてフェロー一人ひとりに付き、学業全般や生活面での相談や助言を行っております。

また、大学が所在する第2750地区を中心に周辺の5地区がホストエリア連絡協議会を構成し、ロータリー平和センターの支援を行っており、第2790地区もその構成メンバーとなっております。

しかしながら、ロータリー財団の使命である国際理解と世界平和を推進するための「ロータリー平和センタープログラム」は、ポリオ撲滅と並ぶ財団の最重要プログラムでありながらも、多くのロータリアンにはまだまだ周知されていないのが実情です。「ロータリーの友」2017年11月号に、日本ロータリー100周年に向け実施されたアンケート結果が掲載されておりますが、この「平和センター」について知っているクラブは20パーセント余しかないという結果となりました。

前述の通り、ロータリー平和センタープログラムはポリオプラスプログラムと並び、ロータリーが推し進める二大プログラムであります。明日の平和構築者を育てるために、ロータリー平和センタープログラムに深いご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

奨学金プログラム	修士号取得プログラム	専門修了証取得プログラム
目的	明日のリーダーを育成	今日のリーダーを強化
期間	15~22カ月(大学により異なる)	3カ月
R平和センターの数	5	1
提携大学	デューク大学/ノースカロライナ大学 国際基督教大学(ICU) ブラッドフォード大学 クイーンズランド大学 ウプサラ大学	チュラロンコン大学
フェローシップ受領者数	最高50人(各平和センターに10人まで)	最高50人(1~4月コースと6~8月コース、各コース25人まで)
実地研修	夏季休暇中、2~3か月の実践的なインターシップ	カリキュラムの一環として2~3週間の実習



ロータリー財団への寄付実績報告

財団資金・推進管理委員会 委員長 水野 晋治 (柏西RC)

当委員会は委員会名の通りロータリー財団への寄付の推進、管理を行う委員会となり、様々な機会において寄付の現状や基金の説明を行ってまいりました。まずは昨年度の寄付の状況についてご報告致します。

昨年度はロータリー財団100周年の記念すべき年となり、6月には100年前と同じ米国アトランタにおいて国際大会が開催されました。

日本ではこの記念すべき年度に年次基金に1ドルも寄付をしなかったクラブ所謂「寄付ゼロクラブ」がゼロという快挙を達成しました。(2017年6月末現在の日本に2,264クラブ) また、当地区においても2015-16年度より2年連続で寄付ゼロクラブがゼロという素晴らしい結果となっております。これも地区内83クラブの皆様のご理解、ご協力の賜物と感謝を申し上げます。

昨年度の寄付の実績をご紹介します。年次基金寄付の総額は341,934.34ドルでした。これは会員一人当たり125.15ドルとなり、地区の目標150ドルを下回っております。目標の150ドル以上を達成したクラブは24クラブ、59クラブが未達成でした。また、最も多いクラブで一人当たり511.11ドルに対し最も少ないクラブでは8.74ドルという結果でしたが、前年の100倍以上の差に比べその差は徐々に縮まってきております。

日本全体では一人当たり平均151.09ドルでしたので残念ながら当地区は日本の平均を下げてしまいました。これは日本国内34地区中25番目という結果でした。また、東京を中心とした関東の地区の中では最下位という残念な結果となりました。過去5年間の平均では2770地区(埼玉南東) 207ドル、2780地区(神奈川) 171ドル、2750地区(東京・北マリワナ諸島他) 166ドル、2590地区(神奈川横浜、川崎) 165ドル、2840地区(群馬) 165ドル、2820地区(茨城) 149ド

ル、2550地区(栃木) 141ドル、2570地区(埼玉西北) 140ドル、2580地区(東京・沖縄) 140ドル、2790地区117ドルという結果でした。

2016-17年度は2015-16年度と比べると一人当たりの寄付額では99.1%に対しポリオプラスへの寄付は157%と大きく前年を上回っており、寄付総額でも103.2%という結果でした。

年次基金へのご寄付はロータリー財団への寄付の基盤です。3年後年次基金寄付の50%が地区財団活動資金(以下DDF)として地区へ戻ってきます。これに前年度の恒久基金の投資収益の50%、前年度の繰越金を加えた額がDDFとなり、地区の裁量の下、地区補助金、グローバル補助金、ポリオプラス、ロータリー平和センターへの寄贈などへ割り振りしております。本年度は3年前の年次基金×50%=159,726ドル、前年度恒久基金の収益×50%=30,698ドル、前年度の繰越金93,212ドル計283,637ドルがDDFとなりました。そこから地区補助金へ90,380ドル配分し、グローバル補助金、ポリオプラスへの寄贈、ロータリー平和センターへの寄贈等に配分しました。地区補助金においては34件のプロジェクトがこの制度を活用し様々な社会奉仕、国際奉仕プロジェクトを実施、準備しているところです。

3年後の地区内奉仕プロジェクトの活性化のためにも是非とも年次基金へは一人当たり150ドル、ポリオプラスへは30ドルのご寄付をお願いします。

また、今年度も当地区からは寄付ゼロクラブを出す訳にはいかないと思っております。1/2264の寄付ゼロクラブを当地区から出す訳にはいきません。その為にも12月の前期の内に一部でも年次基金への送金をお願いしております。まだ送金をしていただけていないクラブにおかれましては至急一部でもご送金をお願い致します。

情報研修会報告



第4分区 ガバナー補佐
内田 稔 (木更津東RC)

第4分区の情報研修会は2017年10月28日(土)、オークラアカデミアホテルで開催しました。本年度も昨年同様、地区研修委員会に研修をお願いしました。

研修対象者は各クラブの入会5年未満の会員、会長幹事並びに研修リーダーとし、参加会員41名、そして、地区より研修委員会メンバー、関口パストガバナーはじめ7名の皆様にご臨席頂き、ご指導を受けました。

研修内容は「ロータリアンであることを誇りにしよう」と言うテーマで、第1部はビデオによる研修、第2部でそのテーマに基づくテーブルディスカッションを行いました。

テーブルリーダーは各クラブの研修リーダーが務め、地区の研修委員会の皆様が各テーブルにつき、

ご指導されました。

ディスカッションの後、各テーブルのリーダーから様々な発表がありました。そのなかであるリーダーから「ビデオ研修が入会経歴の浅い会員にはやや難解である」と発言がありました。私も同感でそれが今後の課題と思いました。

今回の研修の主体になったのは「ロータリーの基本理念の理解」が中心でしたが、昨今の日本の代表的な日本企業のルール違反は目に余るものがあります。企業モラルの低下、過度な利益追求の結果からと思います。このような時こそ、寺嶋ガバナーの言う「理念と実践」やロータリーの基本理念がいかに大切か改めて感じます。そしてロータリアンの定期的な研修の大切さを痛感致しました。



第5分区 ガバナー補佐
西川 佳璋 (勝浦RC)

第5分区の情報研修会は2017年11月25日(土)、2790地区内で最後の開催となり、会場は勝浦ホテル三日月でした。当日の会議を無事終了することができ、関係各位のご協力・ご支援に篤く感謝いたします。

情報研修会は、寺嶋年度がスタートした2017年7月1日以降、地区より入電するファックスに、「研修会は地区研修統括委員会が主体となってRLI(ロータリー・リーダーシップ研修会)を運営する。当日プログラムは次の通り」の文面が届きました。

第5分区としては当初から「RLIを分区に浸透させようー」という考えであったので、地区から送信して下さったプログラムで第5分区の情報研修会を取り仕切って頂けることに問題は無い!という事となり、分区で用意すべきことを準備し、地区委

員指導の下「情報研修会」は点鐘・開催そして成功裏に終了することが出来ました。

出席率は50%。新会員の方ばかりで無く、先輩会員の多くも出席して下さい、RLIに汗を流して下さいことに厚く御礼申し上げます。

テーマは、基調講演・テーブルディスカッション共に「ロータリアンであることを誇りにしよう。」出席者各位共に「RCの理念」「管理・運営」などを学ぶ良い機会になりました。今後、この日吸収したRCの知識を武器に新会員増強・クラブ活性化に精進し、ますます各クラブが隆盛となって行くことをご期待申し上げます。ご協力有難うございました。お疲れ様でした。



テーマ：ロータリアンであることを誇りにしよう



第7分区 ガバナー補佐
中村 亮太 (旭RC)

11月19日（日）第2790地区第7分区ロータリー情報研修会を開催したところ、県内各地から海寶勘ロータリー研修委員会副委員長はじめ地区役員の皆様、第7分区会員59名と大勢のご参集を頂き、「ロータリアンであることを誇りにしよう」という統一テーマでの研修会で、それぞれ熱心な討議が行われました。

開催趣旨説明を藤崎一成RLI推進委員会委員に、基調発表を今野文明RLI推進委員会副委員長に、テーブルリーダーをそれぞれ会員歴の多い会員に、テーブル書記を会員歴の少ない会員にお願いしたものでした。



第9分区 ガバナー補佐
諸岡 靖彦 (成田RC)

11月18日（土）、成田ビューホテルにて、第9分区内6クラブ合同例会として情報研修会を開催しました。テーマは「ロータリアンであることを誇りに思う：寺嶋ガバナーの地区方針 理念と実践～Think Next～」をクラブや会員個人のレベルで考え、進めてゆくために、分区内の会員96名がクラブを超えて一堂に会しました。3時間という限られた時間でしたが、関口徳雄パストガバナー率いる地区研究・研修統括委員会のご助力を戴き、有意義な研修会となりました。

深堀伸之地区委員（成田RC）の趣旨説明に始まり、基調発表は清田浩義地区委員（千葉RC）で、「誇り高きロータリアンとして気概を持つための心得、112年に及ぶ先人が磨いてきた素晴らしいロータリーの理念に精通すべきこと、理念と実践がバランスのとれた奉仕活動に取り組むべき」と伝えられました。続いてテーブル・ディスカッションでは12卓に分か

全体発表を漆原撰子ガバナーノミニージェグネートにお任せし、素晴らしい取り回しにて無事閉会・点鐘に至りました。

地区委員皆様の熱意と博識に圧倒され、自らの不勉強とだらしなさに反省するのみで、総評を関口徳雄研究・研修統括委員長の代わりにしなければならぬということとなり、恥ずかしい限りでありました。

今回の研修は、素晴らしい研修であったと思います。

皆様の熱心なる発表と、地区委員の皆様の導きに感謝申し上げます。有り難うございました。



れて、各クラブの研修責任者6名と地区委員6名がテーブル・リーダーとして50分間の参加型討論を進めました。新しい会員は分区内の先輩からロータリーの楽しさとロータリー精神を学び、経歴の長い会員は自身の経験を語りつつ、自己変革と自クラブの誇りについて考える機会となり、参加会員がそれぞれロータリー観を新たにされたことと思います。

後半は松田泰長理念研究委員会委員長（成田RC）が進行して、各テーブルからの発表60分と、関口PDG講評をいただき、私の挨拶で締め括りました。地区委員会からは理念研究、RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）の活動が紹介され、各クラブに研修情報がもたらされました。

※参加人数：成田28名、八街18名、印西10名、白井5名、富里16名、コスモ19名 合計 96名

地区委員11名
(総合計107名)



情報研修会報告



第11分区 ガバナー補佐
杉山 芳夫 (習志野RC)

皆さま、こんにちは。

11月11日に行った情報研修会は、準備とご指導をお引き受けいただいた地区情報研修会チームの皆さまと、11分区所属の会員一人一人の協力によって、盛会の内に終えることができましたこと、まずもって心より感謝を申し上げます。

参加人数は80名弱、10のテーブル全てを埋める賑わいとなり、またお忙しい中、橋岡ガバナーエレクトにもおいで頂きました。

冒頭の挨拶では「ロータリアンとして行う一人一人の行動や奉仕が、知らず知らずの内に世界平和に繋がっていくのでは」などと話しを致しました。地区委員による講演は「ロータリーの誇り」をテーマに解り易くお話いただき、参加者の理解を深めた後、各テーブルにベテラン会員も交え「ロータリー

の誇りについて」を忌憚なく議論する事ができました。ディスカッションの予定時間の50分は少々長めかなと思っていましたが、地区委員の皆様のリーダーシップにより、充実した時間となりました。その後、全てのテーブルより代表者による発表、そして橋岡ガバナーエレクトの講評を頂くことができました。最後には地区委員の皆様からも暖かいご挨拶を頂いた上で、充実感に満ちた点鐘となりました。

最後になりますが「例会への出席こそが、ロータリーを知る第一歩として非常に大切な事である」と改めてみなさまにお願いを致しまして、私からの報告とさせていただきます。



第13分区 ガバナー補佐
山崎 巖 (野田東RC)

第13分区の今年度の情報研修会を野田商工会議所5階大会議室にて、10月20日(土)に開催いたしました。5クラブで構成されるこの分区は、当初の参加人数を大きく上回り、57名の会員が出席。そして地区からは関口徳雄統括委員長はじめ、地区研修委員会より5名の参加を得て、種々ご指導いただきました。

テーマ「ロータリアンであることを誇りにしよう」の基調発表をパワーポイントで説明したところ、参加者より、「丁寧な説明で解りやすい」と支持を得ました。その後、この発表で感じたことを6つのグループに分け、テーブルディスカッションしました。今年度は、入会3～5年の枠を設けず、この研修会に臨みましたので、各グループには経験豊富な会員が含まれたこともあり、大変活発な話し合いの場と

なりました。テーブルリーダーによる5分間の発表では、グループ毎に様々な意見が出され、意義のある50分と感じました。

分区の各クラブ会員がこの様な形で意見交換することが平素少ないため、地区

から指導いただいた情報を共有し、更に交友を深めるこの研修会の良さをつくづく感じました。

会の最後には関口統括委員長からの総評とは別に、本年度ガバナーである寺嶋氏への強力なバックアップとなる話し、そして参加された会員を含めたロータリアンへの期待の意見を頂戴し、研修会が終了しました。この経験は参加者にとって将来必ずや益になると確信いたします。開催にあたり多くの地区委員の方々のご協力、ご支援に対し分区を代表して厚く御礼申し上げます。



文庫通信 (363号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

デジタル化されたロータリー文献 (6)

- ◎「東一郎」 米山梅吉編 1921 124p
- ◎「ロータリー旅行記」 水嶋峻一郎 1935 28p
- ◎「職業奉仕の勤どころ」 D.365 1970 39p
- ◎「素顔のロータリー」 三宅徳三郎 高松R.C. 1974 85p
- ◎「落穂集・斎藤堅治パストガバナー講話より」 青森R.C. 1976 172p
- ◎「ロータリーの心」 笹気幸助 仙台R.C. 1978 9p
- ◎「決議23-34はロータリーのキ・ポイントである」 末積 正 関西ロータリー研究会 1985 112p
- ◎「社会的責任の中心としての職業奉仕」 鈴木憲輔 [1994] 9p
- ◎「職業奉仕における『個人奉仕』の意義—個人は良心の座であり創造性と責任感の源泉である」 鈴木憲輔 1995 10p
- ◎「フォアウエイ・テストは前進する」 大阪R.C. 2003 39p

[上記申込先：ロータリー文庫]

— ロータリー文庫 —

〒105-0011東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506

<http://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館：午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

(公財) ロータリー米山記念奨学会ニュース (ハイライトよねやま213号)

今月のトピックス

- ・RI会長と米山学友らが懇談 — ロータリー研究会 —
- ・寄付金速報 — 今年もあと半月、ご送金はお早目に —
- ・全国学友会会長セミナー開催
- ・ミャンマー米山学友会による「田中作次奨学金」
- ・韓国米山学友会が総会を開催 — 家族・知人と輪広げて —

《今月のピックアップ記事》

RI会長と米山学友らが懇談 — ロータリー研究会 —

東京・台場で11月20～23日、第46回ロータリー研究会が開催され、その最終日の午後、イアン H.S. ライズリー国際ロータリー (RI) 会長夫妻と米山学友・平和フェローとの懇談会が開かれました。

米山学友からは、アメリカ出身のコリーン・シュムコーさん (2014-16/東京葛飾RC)、中国出身の于咏さん (2005-07/名古屋中RC) と包翠芳さん (2015-17/山形南RC)、ネパール出身のバタライ・ビノドさん (2014-16/東京世田谷南RC) の4人が参加。

それぞれ自己紹介の中で、米山奨学金が学業達成の大きな支えとなり、ロータリーとの出会いが現在の活動や目標につながっていることを、感謝の言葉と共にRI会長夫妻に伝えました。

また、よねやま親善大使を務める于咏さんが米山記念奨学事業についてプレゼンテーションしたほか、他の学友も積極的に質問。会長夫妻はそれらの質問にこやかに答えて、自身の考えや関連するロータリーの活動を紹介するなど、参加者全員にとって、身近にRI会長の意見に触れる貴重な機会となりました。

そのほかの記事は、ぜひPDF版をご覧ください。→http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/pdf/highlight213_pdf.pdf

寄付者紹介 (敬称略)

ロータリー財団寄付

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



高木 恒雄
(船橋西RC)
8回目



庄司 昭
(習志野中央RC)
7回目



徳田 孝一
(船橋西RC)
6回目



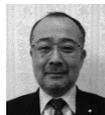
神野 美明
(柏RC)
5・6回目



中野 尚宏
(習志野中央RC)
6回目



本村 政幸
(鎌ヶ谷RC)
4回目



中山 浩一
(柏RC)
4回目



岡本 祐彦
(柏RC)
4回目



風澤 俊夫
(柏RC)
4回目



鈴木 秀一
(柏RC)
3回目



中島 康子
(柏RC)
3回目



山本美代子
(習志野中央RC)
3回目



塩田 俊一
(習志野中央RC)
3回目



安藤 静男
(茂原東RC)
2回目



児玉 隆晴
(柏RC)
2回目



山内 尚美
(柏RC)
2回目



朱 孝
(習志野中央RC)
2回目



宮田 幸保
(習志野中央RC)
2回目

ポリオ・プラス



関 学
(柏RC)
1回目



今山 利猛
(柏RC)
1回目



小林 直人
(柏西RC)
1回目



中島 広明
(習志野中央RC)
1回目



橘 昌孝
(成田RC)



近藤 博貴
(成田RC)



平澤 規雄
(習志野中央RC)



三代川文史郎
(習志野中央RC)

新ポール・ハリス・フェロー



関屋 勉
(茂原東RC)



山田 義雄
(茂原東RC)



篠田 哲寿
(茂原東RC)



古里 正
(柏RC)



花島 和宏
(柏RC)



杉原 浩
(柏RC)



福尾 博永
(柏RC)

ベネファクター



青木 忠茂
(船橋RC)
8回目



石井 伸一
(鎌ヶ谷RC)
2回目



前田 昌男
(船橋西RC)



嘉規 洋
(船橋西RC)



高橋 久子
(船橋西RC)



相川 信善
(船橋西RC)



金子 正
(柏西RC)

新ベネファクター

米山功労者



渡邊 幸一
(鎌ヶ谷RC)
23回目



大倉 崇
(市原中央RC)
20回目



森井 康夫
(市川東RC)
12回目



平澤 規雄
(習志野中央RC)
10回目



鎌野 勝一
(松戸東RC)
9回目



石井 伸一
(鎌ヶ谷RC)
8回目



榊 隆夫
(柏西RC)
8回目



飯生 高一郎
(八千代RC)
8回目



畝本 一実
(市川東RC)
7回目



石井亮太郎
(松戸東RC)
7回目



山岡 仁身
(松戸東RC)
4回目



岡本 克己
(松戸東RC)
3回目



高橋 孝夫
(松戸東RC)
2回目



長島 正巳
(松戸北RC)
2回目



山下 清俊
(市川東RC)
1回目



道永 幸治
(船橋RC)
1回目



皆川 萬壽朗
(鎌ヶ谷RC)
1回目



渡邊 均
(鎌ヶ谷RC)
1回目



藤井 克典
(鎌ヶ谷RC)
1回目



時下 俊一
(君津RC)
1回目



鈴木 淳一
(八日市場RC)
1回目



井本 良三
(習志野中央RC)
1回目



小堤 健雄
(松戸東RC)
1回目



平田 洋一
(松戸北RC)
1回目



高橋 一彦
(松戸北RC)
1回目

新ロータリアン (敬称略)



関根 博文
(千葉中央RC)
建設業
9月7日入会



澤田 順行
(東葛コスモポリタンRC)
宣伝・広告代理店
11月1日入会



木川 雅博
(佐倉中央RC)
弁護士
11月1日入会



氏原 崇
(浦安ベイRC)
税理士
11月2日入会



川西 秀樹
(新千葉RC)
旅行斡旋
11月2日入会



川名 史泰
(上総RC)
土木業
11月2日入会



大川 健士
(木更津RC)
保険業
11月9日入会



北見 洋司
(君津RC)
事務用品販売
11月13日入会



杉井 義行
(木更津RC)
信用金庫
11月16日入会

国際ロータリー第2790地区（千葉）出席・会員数報告（2017年11月）

分区	クラブ名	出席率 (%)	例会数	会員数				
				2017 7/1	女性	当月	女性	増減
第1分区	市川	91.38	3	40	1	38	1	△ 2
	市川東	100.00	3	43	3	44	3	1
	市川南	74.00	4	19	2	19	2	0
	浦安	88.00	2	43	2	45	2	2
	市川シビック	82.06	4	32	0	34	0	2
	浦安ベイ	81.11	3	13	0	15	0	2
平均	86.09	3.17	31.67	1.33	32.50	1.33	5	
第2分区	船橋	89.52	4	29	0	31	0	2
	船橋西	86.58	3	42	7	43	7	1
	鎌ヶ谷	81.74	4	34	2	34	2	0
	船橋東	87.00	4	32	3	31	3	△ 1
	船橋南	97.22	4	13	1	14	1	1
	船橋みなと	88.52	4	20	4	20	4	0
平均	88.43	3.83	28.33	2.83	28.83	2.83	3	
第3分区A	千葉葉	86.84	4	80	3	89	5	9
	新千葉	80.30	4	51	0	53	0	2
	千葉西	85.39	3	45	3	50	3	5
	千葉中央	73.78	3	32	0	36	0	4
	千葉幕張	93.24	4	35	2	37	3	2
	千葉東	68.25	4	34	6	34	5	0
千葉若潮	67.74	3	31	1	34	1	3	
平均	79.36	3.57	44.00	2.14	47.57	2.43	25	
第3分区B	千葉南	69.44	3	47	7	48	6	1
	市原	82.54	3	40	3	40	3	0
	千葉港	88.64	4	24	3	25	3	1
	市原中央	80.04	4	50	1	50	1	0
	千葉北	80.17	4	29	3	29	3	0
	千葉緑	86.70	3	26	1	26	1	0
平均	81.26	3.50	36.00	3.00	36.33	2.83	2	
第4分区	木更津	85.40	3	27	2	30	4	3
	上総	66.66	3	15	0	16	0	1
	富津中央	72.23	4	29	1	34	1	5
	木更津東	83.99	5	46	1	50	3	4
	君津	93.60	4	54	4	59	4	5
	袖ヶ浦	78.16	4	25	4	25	4	0
富津シティ	88.00	5	16	0	15	0	△ 1	
平均	81.15	4.00	30.29	1.71	32.71	2.29	17	
第5分区	館山	80.12	4	49	3	50	3	1
	鴨川	89.31	3	31	4	33	5	2
	勝浦	87.80	4	36	4	39	4	3
	千倉	72.22	3	6	2	6	2	0
	鋸南	88.46	4	13	1	13	1	0
	館山ベイ	75.74	4	23	0	23	0	0
平均	82.28	3.67	26.33	2.33	27.33	2.50	6	
第6分区	茂原	91.14	4	62	0	63	0	1
	東金	62.22	3	14	1	15	1	1
	大原	91.23	4	9	1	11	1	2
	大多喜	82.00	4	6	1	8	1	2
	成田空港南	78.44	3	35	0	34	0	△ 1
	茂原東	90.91	4	21	1	21	1	0
	茂原中央	66.27	3	21	2	21	2	0
	大網	73.55	5	31	1	31	1	0
東金ビュー	62.50	2	20	1	20	1	0	
平均	77.58	3.56	24.33	0.89	24.89	0.89	5	

分区	クラブ名	出席率 (%)	例会数	会員数				
				2017 7/1	女性	当月	女性	増減
第7分区	銚子	82.48	5	39	4	40	4	1
	旭	73.25	2	43	3	45	4	2
	八日市場	64.42	4	38	2	38	2	0
	銚子東	71.44	4	32	2	32	2	0
	平均	72.90	3.75	38.00	2.75	38.75	3.00	3
第8分区	佐原	80.72	4	49	0	49	0	0
	多古	85.71	2	15	0	17	0	2
	小見川	88.04	4	23	0	23	0	0
	佐原香取	72.88	4	25	1	25	1	0
平均	81.84	3.50	28.00	0.25	28.50	0.25	2	
第9分区	成田	69.87	3	69	4	74	5	5
	八街	84.24	4	30	3	31	3	1
	印西	70.74	5	20	1	18	1	△ 2
	白井	48.43	4	15	0	16	0	1
	富里	77.06	4	30	0	32	0	2
	成田コスモポリタン	70.87	5	69	0	70	0	1
平均	70.20	4.17	38.83	1.33	40.17	1.50	8	
第10分区	柏	74.80	5	62	9	62	9	0
	我孫子	76.91	4	26	3	25	2	△ 1
	柏西	87.37	3	62	3	66	3	4
	柏東	73.25	4	35	6	35	6	0
	柏南	68.70	4	33	5	41	6	8
平均	76.21	4.00	43.60	5.20	45.80	5.20	11	
第11分区	習志野	75.43	5	26	2	26	2	0
	八千代	86.57	3	51	0	51	0	0
	倉	64.66	4	28	3	29	3	1
	八千代中央	75.80	2	22	1	22	1	0
	四街道	76.85	4	27	3	27	3	0
	習志野中央	70.67	3	48	5	53	5	5
佐倉中央	68.18	3	21	5	22	6	1	
平均	74.02	3.43	31.86	2.71	32.86	2.86	7	
第12分区	松戸	86.77	4	55	0	57	0	2
	松戸東	90.38	3	46	0	44	0	△ 2
	松戸北	75.13	5	39	0	40	0	1
	松戸中央	74.62	3	44	6	44	6	0
	松戸西	87.93	4	29	0	29	0	0
平均	82.97	3.80	42.60	1.20	42.80	1.20	1	
第13分区	野田	78.79	3	54	7	56	7	2
	流山	71.42	3	14	4	14	4	0
	野田東	79.36	3	22	0	22	0	0
	流山中央	95.00	3	22	2	22	2	0
	野田セントラル	83.70	4	25	1	25	1	0
平均	81.65	3.20	27.40	2.80	27.80	2.80	2	

クラブ数83RC		
2017年7月1日	地区会員数	2,761人
2017年11月末日	地区会員数	2,858人
2017年7月1日	地区女性会員数	177人
2017年11月末日	地区女性会員数	186人
当月平均出席率		80.30%
増減		+97
女性会員増減		+9

物故会員（敬称略）



八田 賢明（第12分区 松戸東RC）

逝去日：2017年11月26日（享年80歳）

入会日：1985年9月6日

ロータリー歴：2001-02 クラブ会長

マルチプルPHF 1回目

ベネファクター 2回目

米山功労者 5回目

1月のロータリーレート

114円

インターアクト国外研修報告特集



インターアクト国外研修 ご報告

インターアクト委員会 委員長
須藤 郁雄 (千葉西RC)

去る11月18日(土)～21日(火)の4日間にて、今年度インターアクト国外研修を近くで親しい台湾・台北市内のRID3481地区協力のもと実施いたしました。

国際理解・国際交流・社会奉仕を同世代の青少年と共有し行動することを目的に、千葉県高等学校文化連盟のご協力をいただき、地区内インターアクトクラブ11校より、生徒31名・引率教師1名・委員会4名、総勢36名参加にて行いました。

■1日目：台北・桃園空港到着時に、今回代表世話クラブRID3481地区西門扶輪社メンバーと、同地区インターアクターの熱烈歓迎を受けました。市内ホテルへ向かい荷物を置き、日台インターアクト交流会の会場へ移動し、RID3481地区扶少団との交流を行いました。その後、西門扶輪社主催の歓迎交流晩餐会を行って頂き最後に、インターアクター(31名)&扶少団(40名)でプレゼント交換を致しました。会場入退場時、扶少団の熱烈歓迎を受け、インターアクター共々感動いたしました。

■2日目：午前中、台湾師範大学校付属高等学校講堂にて、扶少団と共に台湾外交部日本政務科・科長傅國華様より「日台歴史過去から未来へ」の講話をいただきました。

午後より社会奉仕としてインターアクター・扶少団合同で、特定心身障害者の方を迎え、健常者との違

い・接し方等を施設の先生に学びながら奉仕活動を実行いたしました。残念ながら雨にみまわれましたが、積極的に取り組んでいました。

その後、師範大学近くの駅より扶少団引率で MRT(地下鉄)にて「寧夏夜市」へ。現地台湾の活力あふれる文化を一時感じてきました。

■3日目：日台の歴史へ接する「台湾總統府」へ訪問し、職員による流暢な日本語で、統治時から現在までの歴史を学びました。

昼前に「開平餐飲学院」(RID3481信義扶輪社提唱)へ訪問し、扶少団との交流をし、昼食にはRID3481地区ガバナーも出席下さいました。その後、中正記念堂の衛兵交代を見学した後、「開南商工学校」を訪問し、学校長の歓迎を受け、学校でのクラブ活動を見学・交流を致しました。その夜はRID3481地区主催、さよならパーティーの会場において、スタンツ研修を実施し、総勢100名を前に各班(5班)ごとに発表を行いました。

扶少団より喝采を受けておりました。

■4日目：参加者それぞれ思いをもって無事帰国いたしました。

到着後、成田空港内にて解団式を行い、保護者の皆様へ報告を済ませ、解散いたしました。今年度は「Making a Difference」をテーマにいたしました。

参加者にとって思い出に残る実の有る行事だったと思います。

最後に、本行事にご支援・ご協力をいただいた、RID3481地区扶輪社・扶少団・提唱校及びロータリークラブの皆様には、委員会一同より、感謝御礼を申し上げます。



第30回インターアクトクラブ 国外研修を終えて

市原中央高等学校
インターアクトクラブ顧問
石井 仁之

11月18日より21日の日程で、記念すべき第30回目のインターアクトクラブ国外研修が台湾、台北市にて実施されました。

まずは、主催であるRI2790地区の皆様をはじめ、台北市のRID3481地区西門扶輪社及び扶少団、2790地区内インターアクトクラブ各校長先生、実施にあたりご支援とご協力を頂いたすべての皆さまにこの場をお借りして感謝を申し上げます。

天候には恵まれなかった4日間の行程ですが、31名のインターアクターそれぞれが、今後の各校での活動に活かすことができる学びをすることができたのではないのでしょうか。



交流会 台湾・日本のクラブ代表 全体写真

台湾は日本と非常に深い関わりを持った「隣国、の一つです。経済では「日本は台湾で3位、台湾は日本で4位の貿易相手国」という関係を築いています。また、観光面では日本と台湾を行き来する旅行者が毎年増加し、両国において両国が人気観光地の上位をキープし続けています。さらに、両国はともに「地震大国」であり、防災段階・地震発生時にお

いて相互に協力をし続けてきました。そして、私たちが常に心に留め置く必要がある歴史として、日本が台湾を19世紀に統治したという関係もあります。

歴史上築き上げてきた関係、台湾が先進技術分野における発展がめざましいこと、民間レベルでの交流が盛んであること、地理的要因などを考慮すれば、日台のつながりはこれまで以上に強いものとなり、長く続いていくことは誰の目にとっても明白です。一方で、日本は国際社会において台湾を「国」として承認しておらず、正式な国交を樹立していないという現状があります。

グローバル化が進み続ける現代社会において、日台関係をどのようなものにしていくのか。今回の研修に参加した世代の子ども達が非常に大切な役割を果たしていくことになり、その中でインターアクター達がリーダーシップを発揮していくことを切に願う国外研修となりました。



市原中央高等学校
インターアクトクラブ
村上 栞里

私は、2790地区インターアクトクラブ台湾国外研修にホスト校として参加させていただき、たくさんのことを学びました。この貴重な体験の中でも印象に残った2つのことを記録に残します。

1つは台湾と日本の違いです。台湾は貧富の差が大きく、日本と比べても初任給などが大きく異なります。初任給が約20万円の日本に対し、台湾は約12万円と少ないことを聞きました。台湾の物価は日本とはあまり変わらないらしいのですが、学生が日々8時間の授業を受けていることや、大学へ行くことができてもそのうち75%が職に就くことができないことなど、驚くことが多くありました。中でも少子化問題、台湾では生活難により1人っ子が多くなっていることが理由で原因は違いますが、日本と同じく解決しなければならないことだと感じました。

2つ目は台湾と日本の関係です。現在、世界では国交関係が問題になっている国々のニュースをよく

耳にします。しかし私は台湾で日台関係を学んだ際に台湾の親日の思いに感銘を受けました。日台関係は、私が考えていた以上に前から続いていたからです。1949年から1980年、蒋介石が「以德報怨」の考えに基づいて、日本の政治に対して賠償請求を行いませんでした。そこから31年経った2011年3月11日の東日本大震災の際に台湾は日本に対し一番最初に人を送り、復興の支援をしてくれました。それを受けて2016年の台南大震災で、日本は台湾が欲しているものは何かを第一に考え、支援物資を送りました。それらにより、今でも日本と台湾はよい関係が続いています。特に2013年のWBC野球台湾戦で円陣とお辞儀に込められた思いを聞いた時にはとても感動しました。この試合によって日台の友好関係はより深くなったと思います。

この海外研修に参加しなければ知ることのできなかった歴史や文化を知ることができ、新たな友情を築き上げることもできました。私達にこのような貴重な経験をさせて下さったロータリーの方々はもちろん、全ての方にも心から感謝しています。この経験から得たことを少しでも多く取り入れ、生かし、充実した活動を行っていけるように部員全員で頑張ります。

フェローシップ委員会だより



【第1回銚子ツーリング】

RMCC2790 (地区二輪車同好会)

事務局長 増谷 信一 (柏西RC)

ツーリング前日夜半から当日の朝方まで、千葉県内は雨に見舞われてしまいましたが、大栄PAに集合の8時迄には曇り空から時折雨が差し始めてきました。二輪車ですので、転倒の恐れが有り、参加者が少ないのではと心配をしておりましたが、千葉県内各地よりオートバイ13台・車1台(総勢17名)が集まりました。北原会長の挨拶、走行行程や注意事項の連絡等のセレモニーを行い、全員で恒例の集合写真を撮り、9時丁度で大栄PAを出発し、一路目的地の銚子まで向かいました。10時過ぎには、最初の観光地「地球の丸く見える丘展望台」に全員無事に到着をし、次に「犬吠埼灯台」へ向かい、その後最終目的地の昼食会場「礁」に到着を致しました。

昼食会場には、銚子RCの松本恭一会長も、二輪車(自転車)で特別参加をして下さいました。海の幸を堪能しながら、限られた時間でしたが、二輪車談議で盛り上がり、懇親を深める事が出来ました。昼食後、現地にて「寺嶋年度第1回ツーリング」の解散式を行い、全員が無事に帰路に着きました。

今回、大変お世話になりました銚子RCの松本会長を始め、石毛様・高木様、本当にありがとうございました。



女性会員交流会

女性会員交流会 会長 落合 一美 (柏RC)

都内の紅葉も真っ盛り、可愛らしいイルミネーションもちらほらと点灯する中、11月18日(土)に寺嶋ガバナー年度1回目の女性会員交流会を帝国ホテル本館4階梅の間にて開催致しました。女性会員相互の交流を深め、クラブや分區を超えた友情を深め、退会防止や女性会員増強を務めようと14クラブ、31名集まって頂きました。

2時間という限られた時間の中で楽しく歓談、お食事、お酒と次回の計画の希望等のお話などしている間に楽しい時間が過ぎていきました。集めた会費の中からポリオプラス基金へ寄付する事に賛同も得られ、今後も実りある交流会にしていきたいと思っております。

今回、定員人数を超える申込みがあり、締め切りを早めてしまい参加できなかった方々には大変申し訳ございませんでした。次回はそのような事がないよう頑張ります。

今後も皆様のご理解、御支援の程よろしくお願い申し上げます。



長澤蘆雪 月下仔犬図

長澤蘆雪(ながさわろせつ) 生没年…宝暦四年(寛政十一年 西暦一七五四年)一七九九年)は円山応挙の高弟で、師とは対照的に大胆な構図により奇抜で機知に富んだ画風を展開した事から、伊藤若冲・曾我蕭白・狩野山雪らと並び、奇想の画家として知られる。代表作に、龍虎や群鶴を描いた無量寺障壁画、山水や唐獅子を描いた成就寺障壁画、群狗や蛙を描いた草堂寺障壁画などがあり、共に国の重要文化財に指定されている。